

あなたのすぐそばの「国際化」に関心を持つとう

「内なる国際化」プロジェクト

外国にルーツを持つ人が日本国内に増えています。本学では、文化や宗教、民族といった従来の枠組みを超えた、多様な価値観を理解できる学生の育成を目指し、二〇一五年度からプロジェクトを開始しました。

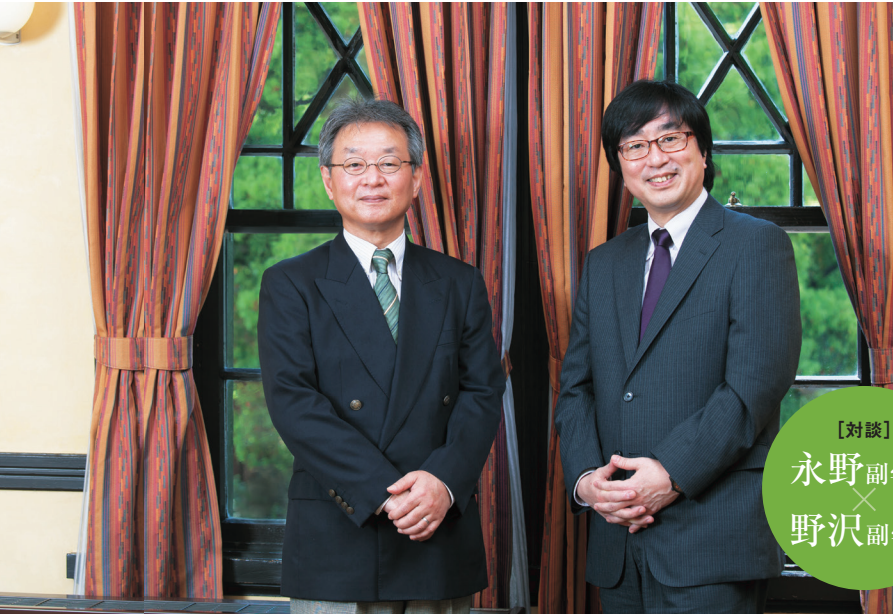
教養教育センター
・社会学部
共同事業



INTERNAL

INTERNATIONALIZATION

【対談】
永野副学長
×
野沢副学長



「内なる国際化」プロジェクト共同代表の永野茂洋副学長(左)と野沢慎司副学長(右)

野沢副学長(以下野沢) 本学は「国際化」のため、留学生派遣を中心に取り組んできました。国外に行くイメージが一般的です。

永野副学長(以下永野) 一方、「内なる国際化」は、「日本国内での国際化」のこと。日本に住む外国人と接し、支援する学生を育てるプロジェクトは、本学にとって新しい領域です。

そもそも「内なる国際化」とは

永野 いま日本には労働、結婚、難民など、さまざまな理由で来日した、外国にルーツを持つ約二二〇万人(※)の人口が住んでいます。

野沢 日本初の和英辞書、『和英語林集成』編纂でも有名です。

永野 医療や宣教の前に「言葉の壁」を超える必要があったからです。相手に分かってもらうこと、相手を理解することにはヘボン博士も苦労されたと思うんです。「内なる国際化」においても通じることですね。

野沢 他者への貢献のため努力されたヘボン博士の精神を、プロジェクトで受け継ぎたいです。昨年、医療現場での通訳ボランティアについて講演された、卒業生で医療ケースワーカーの松野勝民さん(MICかながわ理事長)はまさにヘボン精神の体現者です。ソーシャルワーカーを目指すような学生にはぜひ関心を持ってほしいですね。

多文化社会において必要な姿勢

野沢 外国に行く外国人として、その国の人から対応されます。その時、初めて外国人の気持ちを知る。

「個人」と「個人」の関係が、国境を超えます。
(永野副学長)



「内なる国際化」と明治学院のルーツ

永野 本学創設者のヘボン博士は、

野沢 一九九〇年頃の労働力不足時に来日した外国人も多く、現在その子世代が大人になりました。出身国のアイデンティティを持つ親世代と異なり、子世代は親の出身国と日本文化両方に触れて育ちます。親の出身国と育った国のアイデンティティで揺れつつ、どちらでもない文化を持つ彼らはサードカルチャーキッズと呼ばれています。

永野 目から鱗が落ちるような考え方ですね。アメリカと日本、韓

野沢 学生の中には、この視点を身につけてほしいですね。授業や実践で学ぶことで、「多文化共生サポーター」「多文化共生ファシリテーター」認証を予定しています。認証は現在、社会学部生が対象ですが、広がりを目指しています。

永野 プロジェクトの入り口は外国をルーツとする人との接触ですが、日本社会のほほすすべての問題が関わり、そしてそれらは大学で学べます。特に将来、公務員や教員を目指す人は、異なる文化背景を持つ人と必ず出会うでしょう。本学がどういう人を育て、社会に送り出したいか、ということと関わると考えています。

ここが POINT!

「内なる国際化」プロジェクトに関する授業では2つの認証制度があります*

所定の授業を学ぶと「多文化共生サポーター」に認証!

明学共通科目から4科目、社会学部科目から3科目、計7科目14単位のうち規定の科目・単位数以上の修得で認証します。

所定の授業 + 支援実践を学ぶと「多文化共生ファシリテーター」に認証!

授業に加え支援実践への参加を通して、移民や人権問題への洞察力を持ち、外国につながる人たちの共生社会の担い手を目指します。

※社会学部1・2年生が対象です。

このプロジェクトには、「Do for Others」の精神が活きています。(野沢副学長)



※法務省【在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表】在留外国人統計2015年12月末時点

授業内容は次ページへ!

社会学特講A

「異文化コミュニケーション」

社会・社会福祉学科
春学期・秋学期木曜2時限 | 白金キャンパス
2年次より履修可能 | 岩田一成先生

外国籍住人の国籍、在留資格等から日本の現状を紹介。また、外国籍住人が通う日本語教室の状況や支援活動、「やさしい日本語」(*)を学ぶことで外国人を取り巻く現状を理解する。実際に、地域日本語教室で支援活動に関わる人材の育成を目指す。

※「やさしい日本語」とは、難解表現を言いかえるなどして(外国人にとって)分かりやすくなった日本語。

MORE INFO!

「多文化共生ファシリテーター」認証に必要です

支援実践への参加

外国につながる人たちが抱える生活課題を解決するための支援活動現場に参加し、実践から学びます。2017年度から皆さんが参加できるように、2016年度中に準備予定です。

学科を問わずすべての学生が参加できる 各種イベント



日本で育った外国をルーツに持つ人びとのドキュメンタリー映画やトークイベント、支援活動に携わる人の講演会など、さまざまなイベントを行います。どなたでも参加できます！

最新情報はここでチェック!

オリジナルWebサイト



2016年度春に「内なる国際化」プロジェクトのWebサイトを立ち上げました。支援実践への参加、イベントなど随時お知らせしますのでぜひご覧ください。
<http://internal-i18n-meijigakuin.org>

プロジェクトについての 本も出版

2015年度に行った「内なる国際化」プロジェクトの成果をまとめて出版しました。図書館でも閲覧可能です。

明治学院大学教養教育センター・社会学部編(2016)

「もうひとつのグローバル化」

「内なる国際化」に対応した人材の育成— かんよう出版 1,080円



社会学特講B

「内なる国際化論 —日本および アジア諸国の比較研究」

社会・社会福祉学科 | 夏季集中 | 白金キャンパス
2年次より履修可能 | 宣元錫先生

現代のグローバル化と、人の移動がもたらす社会現象について学習する。グローバル化の由来と展開、影響等について幅広い理解を目的とする。その具体的な事象として日本とアジアを中心に展開される身近な事例を取り上げる。

英語研究1A

「多文化社会と言語教育に関する科目①」

明学共通科目 | 春学期金曜2時限 | 横浜キャンパス |
2年次より履修可能 | 高桑光徳先生

これまで漠然と英語を学習してきた人が多いであろう。しかし、そもそもなぜ私たちは「英語」を学習しているのだろうか。この授業では、これまで当然のこととして考えてきた英語学習を検証し、英語の必要性について考えてみる。

グローバル人材育成に
必要な外国語教育とは
教養教育センター教授 高桑光徳



グローバル化と英語教育は直接的に結びつけられることが多いですが、「グローバル化」=「英語を使うこと」ではありません。英語は「使えろと便利なモノ」である一方、「使えないと困るモノ」でもないのです。在留外国人の数も増加し、日本社会はますます多文化化しています。これからはどのような外国語教育を目指すべきなのかを考えていきます。

英語研究1B

「多文化社会と言語教育に関する科目②」

明学共通科目 | 秋学期金曜2時限 | 横浜キャンパス
2年次より履修可能 | 高桑光徳先生

外国語を学習するとき、どのような目的で、またどのようなレベルを目指して学習すべきであろうか。この授業では、少子高齢化が加速する日本社会において、どのような言語教育のあり方を模索していくべきかについて考えてみる。

居住者の歴史的背景を理解しよう
東京外国語大学
特任講師 長谷部美佳



日本につながる外国人に幸せに住んでほしいという思いから研究を始めた。多くの外国人が住み、みんな異なる歴史的背景を持つ、という基本的なことを理解してほしいです。昨年に比べて、今年は履修者がとても増えました。授業で身近な例を挙げると、自分に近い問題として考える明学生も。授業後、関連書籍の質問やボランティア希望の声も聞かれ、関心の高さを感じます。

国際化理解への一歩はここから
指定科目の紹介
理解を深めるための授業を用意。
所定の単位修得により、
「多文化共生サポーター」に認定されます。



INTERNAL

現代世界と人間1

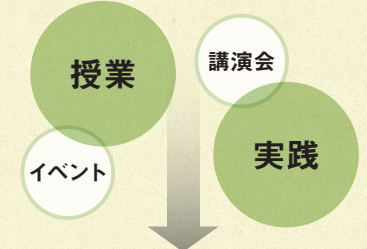
「内なる国際化としての 多文化共生①」

明学共通科目 | 春学期月曜4時限
横浜キャンパス
1年次より履修可能 | 長谷部美佳先生

日本在住の外国人は200万人を超え、国籍も多様化しているが、背景が理解されているとは言い難い。外国人居住者の歴史的背景を学び、社会の受入姿勢を明らかにすることで日本の「多文化化」の基礎的な理解を図る。

「内なる国際化」プロジェクトを
通じて身につく力

「内なる国際化」プロジェクトで行なわれること



多様性に対する寛容さ

こんな力も身につきます!

- 他者を理解する能力
- 異質な他者とつながる能力
- アイデンティティを尊重する力
- 自己移入能力
- 自文化を一旦保留する力 など

社会学特講A

「内なる国際化論 —人の移動の実態と メカニズム」

社会・社会福祉学科 | 夏季集中
白金キャンパス
2年次より履修可能 | 宣元錫先生

1980年代以降、日本に多くの外国人が流入して以来、日本社会の多民族多文化化が急速に進展し、社会にさまざまなインパクトを与えつつある。多民族多文化化しつつある社会の現状をどのように理解するか、理論と実証を合わせて検討する。

現代世界と人間2

「内なる国際化としての 多文化共生②」

明学共通科目 | 秋学期月曜4時限 | 横浜キャンパス
1年次より履修可能 | 長谷部美佳先生

人はなぜ移動し、移動先でどのように社会に適應するのか。社会は越境する人の動きにどう対応しているのか。日本で急速に進展する「多文化化」を把握する上で必要な、多文化社会を成り立たせている諸要因を「説明」する考え方、「視点」を学ぶ。



INTERNATIONALIZATION